LUZ の熊野古道案内

2009 年　3 月　中

3 月 13 日　～　23 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　３月

３月１３日　桜の花が咲き始めました・・・
３月１４日　こんなのもやるそうです　写真教室
３月１５日　深刻なネタ切れ
３月１６日　紀南ツアーデザインセンター
３月１７日　昭和の大合併の頃
３月１８日　紀勢本線はローカル線？
３月１９日　ローカル駅　紀勢本線　紀伊市木駅
３月２０日　ローカル駅周辺　紀伊市木駅
３月２１日　田舎の町並み　有馬町
３月２２日　春本番　イベントの季節
３月２３日　次のイベント　古道ぜんざい

2009 年　03 月　14 日

熊野の旅　こんなのもやるそうです　写真教室

尾鷲には『県立熊野古道センター』というものがあります。
時々は熊野古道に関連するイベントを行っているようです。
たまたま、ネットをうろついてぶつかったものに下のようなのがあります。
私は無所属ですし、こうした催しが好きじゃないので興味がありませんが、もし、興味のある方は参加してみてください。
と、言っても、わざわざここまで来て団体でゾロゾロと同じ写真を撮るのかや…と思われる人も居るでしょうが・・・

『世界遺産登録 5 周年記念　「熊野古道写真学校　～心に焼き付ける新緑の熊野～」』

開 催 日：平成 21 年 5 月 15 日（金）～　5 月 17 日（日）
参 加 費：33,000 円（2 泊 6 食付）
*開催初日 10 日前以降の解約にはキャンセル料がかかります。
（開催初日 10 日前～2 日前:30%、前日:50%、当日:100%）
定　　員：60 人・各ゼミ 20 人（要申込、先着順）
講　　師：清水重蔵氏　山口典利氏　杉本恭子氏　＊竹内敏信校長、来校予定です。
主　　催：三重県立熊野古道センター
共　　催：熊野市
後　　援：紀北町、尾鷲市、御浜町、紀宝町、東紀州観光まちづくり公社
募集期限：平成 21 年 4 月 20 日（月）当日消印有効
場　　所：　三重県熊野市・御浜町・紀宝町の熊野古道や周辺の自然、漁村、山里など

だ、そうです。
私なら、若い娘や、ご妙齢のご婦人なら書類審査のうえ無料でカメラの手ほどきをいたしますが…
困ったことに、今流行の『デジタル一眼レフ』の類にはなじみが無いので困りますけどね（笑）

詳しいスケジュールは
◇スケジュール（予定）
5 月 15 日（金）　12:30～　受付開始　＊会場・三重県立熊野古道センター
13:30～　開校式
14:30～　講演　等
18:30～　交流パーティ＊会場・かんぽの宿
5 月 16 日（土）　8:30～　撮影（各ゼミ）
＊夕景撮影（希望者のみ）
5 月 17 日（日）　8:30～　撮影（各ゼミ）

12:30～　写真クリニック
14:45～　閉校式　＊会場・三重県立熊野古道センター
15:00　　解散

申 込 先：熊野市観光公社
〒519-4324　三重県熊野市井戸町 653-12
TEL：0597-89-2229　FAX：0597-89-3300

だそうです。
交流パーティ会場は熊野市だそうです。話題の『簡保センター』ですよ。
眼下には『千ドル』位の夜景が広がっています。
早く来ないとどうなるか分からない簡保センターの一つです。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　奥川邸　　by **je2luz** | 2009-03-14 09:58

2009 年　03 月　15 日

熊野の旅　深刻なネタ切れ

随分長い間取材に出かけていません。
当然、ネタがなくなってきます。
元々そんなに地元に詳しいわけではないのですから、うろついて写真を撮っているうちに思い出したりするものです。
気候も良くなってきたし、一時よりはガソリンも安くなったし…
カメラを積んで足を伸ばさなくては…と、思っています。

紀州路・紀勢西線側では『串本有田』までしか駅も載せていません。

それから先、田並・田子・和深・江住・見老津・周参見・紀伊日置・椿・紀伊富田・白浜…小さいですがそれぞれこじんまりと趣のある集落に小さな駅があります。
80Km 先から 110Km ほど先までの 30Km ほどの区間です。
国道４２号線もこの区間は変化に富むと言えば聞こえはいいのですが、カーブが多くて、海沿いとはいえ走りよいものではありません。
田舎道ですからどこでも車を停めて休めますが、ドライブインなんてのも少ないですね。
やめるところはあっても新しく始めるところは中々ありませんからね。
昔、２０年ほど前に時々立ち寄った江住駅前の喫茶店はまだあるでしょうかね。
このコースは海沿いとは言え、潮岬のところが紀伊半島の突先で出っ張っているし、そこまで南下してから北上する道順なので、徒歩の時代には遠回りと言うことであまり重要ではなかったようです。
鉄道だとか道路は平らなところ、集落のあるところを選んで作られましたし、昔の『街道』は高速道路並みに目的地に向かってなるべく短く作ってあります。
道筋にぽつぽつと茶店や多度があれば良い訳ですからね。
道路の整備がうんと遅れた３１１号線沿いの『中辺路』の方が人通りが多かったのは『熊野詣』の時代は足で歩いたからでしょうね。
確かに、あちらは山越えですが地図ではまっすぐ熊野本宮大社に向かっています。
なんとか、以前取材した紀伊有田・有田中学校の先の写真を撮りに行きたいと思っています。

有田中学校ももう廃校になり、取り壊されているのではないかと思います。
木造の趣のある校舎でしたけどね。
でも、残すと言うのは大変なことです。
人の出入りしなくなった建物は使っているときの数倍の速さで傷んでしまいますからね。

Tags:紀勢西線 熊野古道 国道４２号線　串本有田中学校　by **je2luz** | 2009-03-15 12:08

2009 年　03 月　16 日

熊野の旅　紀南ツアーデザインセンター

久々に、旧・奥川邸『紀南ツアーデザインセンター』を覗きに行ってきました。
古い建物ですから、しばらく行かなくても変わるわけもありません。静かに来客を待っていました。

元は多くの使用人などが出入りした建物ですが、民家として作られたものです。
木本にしては珍しくまともな二階建てになっていますから、一階部分は来客用に作られています。
と、言っても、客商売の家ではありませんでしたから、『お客様』は想定していますが、大勢がぞろぞろ出入りすることは考えられていません。

こうした建物が各地で開放、展示されていますが、大体において団体で入ってぞろぞろ歩いて、説明を聞いて…では、全く『行って来た』に過ぎなくなります。
建築や民俗学に興味のある人でなければ木組み、屋組みの違いが風土に合わせて変化しているとか、仕組みが時代の流行によって変わって言っているなんて言われて分かったつもりでも本当のところは分からないものです。
ましてや、往時の生活を本当の意味でしのぶなんてできませんね。

この『奥川邸』も民家ですから、少人数で行って、廊下や客間や台所に佇んでみて少しだけ何かを感じられる場所かと思います。
まあ、よほど運が悪くない限り…自分達が大きな団体で無い限り、ごちゃごちゃと大人数で…と言うことにはならなくて済むのがここの良さでしょうね。
他の新築される『熊野古道』関連の会館類のようには、「さあ、ここへ来い」「これを見ろ」なんて宣伝も主張もしていませんからね。

しかし、その良さが、ここの持っている問題点でもありますね。
単純な「開放した文化財」ではなく、一つの団体として動かなくてはならないものですからね。
端から、入場料など取らずに開放しているのでそちらでの収支は問題になりません。
閉めっぱなしにしておくよりは開放して人が入り、空気が入れ替わる方が建物のためには良いのです。
でも、この組織をずっと維持するのは結構大変ではないかと思います。
ここの決算と補助金の内訳など今は知る立場にも無いのでいいのですが、知りえるとなると少しばかり悩ましいかと思われます。

『お客様の接待』と割り切るか…
果ては、『世界遺産と地元熊野市の行政と市民』と言うところまで考えなくてはならない部分もありますね。
人口ももうすぐ２万人を切ります。
あと１０年もすれば老人が 40%を越すでしょう。

『昭和新市の化石』ができつつあります。
『熊野古道』が出来て千数百年…『世界遺産』に指定されて数十年で…この道沿いには色んな集落もあったのだそうな…と、IT ガイド機でも持った探険家スタイルの古道マニアが歩くようになるのかもしれません。
温暖化で進入してきたマラリアなどを恐れながらね。
地中海周辺の過疎の村のように陽気に歌を歌って踊っていられないのが日本人ですからね。
この辺の人間は随分『南洋的』なのですがねえ…

Tags:熊野市 世界遺産 モノクロ　　奥川邸　　by **je2luz** | 2009-03-16 11:1

2009 年　03 月　17 日

熊野の旅　昭和の大合併の頃

熊野市の発足は昭和２９年（1954）１１月３日です。
この時期に、市町村合併の特例法が出来て、国の方針で町村合併を促進したのです。
たしか市になる要件は５万人位だったのを、３万まで引き下げて大量の『新市』を誕生させたのです。
熊野市も合併準備の段階では９ヶ町村の合併を目指したのですが、合意に至ったのは８か町村でした。
戸数　7.127　　人口　31.693 人　でした。
この時代にはまだ世帯の分離が進んでいなかったこともあり、人口が今の５割り増しなのに戸数は３割も少ないです。
これは珍しいことではなく、日本全国の田舎ではこうした傾向があります。

この年の出来事となると、熊野市の年表でも、合併に伴う学校や組織の名前の変更が並びます。

合併で自治体の名前が変わるとそうしたものは全部付け替えますからね。
目に見えにくいところでは、この３１．６９３人の住民票も全部、『南牟婁郡〇〇村』から『熊野市〇〇町』に書き直したのです。当時は手書きですから、すべて手書きで直したのです。
更にはこれより数の多い、『戸籍』も書き直したのです。
私が生まれたのは…『三重県南牟婁郡木本町』でした。　　それが知らない間に『三重県熊野市木本町』で生まれたことになっていました。
大人になってから、市長に『私は熊野市木本町生まれじゃなくって南牟婁郡木本町生まれのはずだけど…』と、言った事があります。
市長も、『俺も南牟婁郡飛鳥村生まれだのに熊野市飛鳥町になっていて、違和感がある…』と言っていました。
戸籍の出生地は歴史ではなく、場所を示すものなのでこうなるようです。

合併の直前（１０月）に、紀伊木本駅（現・熊野市駅）の前の沼地の埋立地が完成しています。
旧・有井村が失業対策事業として造成したのだそうです。
浜寄の一角に細い線路がしかれ、トロッコで浜の砂利を毎日毎日上げていたのは記憶にあります。
詳しい時期までは覚えていませんでしたが、合併前の事業だったようです。
この完成によって、駅前が広くなり、随分街造りが変わりました。
この工事が無かったら、市役所の場所も全く違っていたでしょうね。
この沼を記憶しているのは、私より年上の人ですね。
それでも、『駅前の沼』と口に出しても、『そういやあ、確かに沼があったのう…』と言うような記憶ですね。
人間の記憶って当代のことでもそんなものですから、１００年も経てばほとんど消えてしまうのですね。

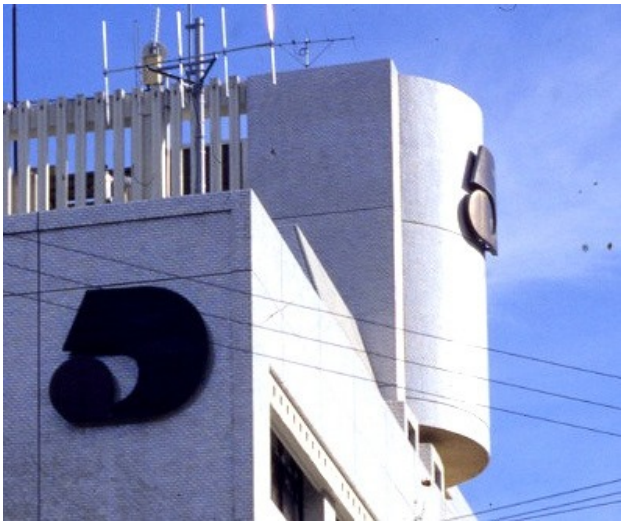
合併の時…
私たちの、出来立ての『熊野市立小阪小学校』でも旗行列をやりました。

三重の県（あがた）の　南（みんなに）の
ここ紀ノ國の　み熊野の
8つ（やつ）の町村　すべあわせ
いま新しく　生まれたる
熊野　熊野市　栄えあれ

たしか、こんな歌だったと思います。
かすかな記憶しかありません。
なにしろ、熊野市の市歌ではなく、合併祝賀の歌ですからね、その時限りなんです。
もっと大きな
『金鵄輝く　日本の・・・・・・』
なんて、日本中が覚えて歌って旗行列、ちょうちん行列をやった、『紀元は２６０

０年』なんてのでさえ忘れられてゆくのですからね。

　ちなみに、合併特例でスライド敷に市議会議員になった数は８ヶ町村分で１３１名でした。
　翌昭和３０年２月に正式の熊野市議会議員選挙が行われ３０人になりました。
　昭和の大合併の時だけではなく、平成の大合併でもこのような体育館でしか議会を開けないような事態が一次的に起きていますね。



　この市章は合併時に公募で集まった中から選ばれたものでした。
　熊本の方の作品で・・・『ク・マ・の』を組み合わせたものだそうです。
　今の４代目市長によって、『平成の大合併』を機にデザインが少し変えられています。
Tags:熊野市 昭和　　by **je2luz** | 2009-03-17 11:43

2009 年　03 月　18 日

熊野の旅　紀勢本線はローカル線？

　国鉄の路線には『東海道本線』『山陽本線』などと呼ばれる、基幹路線で『本線』の付くものと、それの付かない『紀勢西線』『紀勢東線』などと呼ばれるものがありました。
　国道も一級国道、二級国道に区別されたようなもので、国全体での重要性が基準だったのでしょうね。
　紀勢線も東西に分かれていたときには『本線』が付かなかったのですが、全通してからはこれの付く、『紀勢本線』と言う立派な長い路線になりました。
　ただ・・・
　この路線は東は『亀山』に始まり、西は『和歌山市』で終わるものです。
　名古屋ー大阪天王寺ではないのです。

天王寺から和歌山までは『阪和線』。名古屋から亀山までは『関西線』に列車は乗り入れます。

国道で言えば『併用区間』みたいなものです。

時刻表も、今のように路線だけ取り出したものは簡単ですが、交通公社の大きな時刻表などでは非常に見づらい路線になります。

本線なのに本線らしくないものですね。

そもそも、名古屋や亀山から大阪に向かうのなら、その当時でも『関西本線』を使えば奈良経由でまっすぐ行けます。終点が『湊町駅』というちょいとマイナーなものだと言うだけです。

つまり、列車を使って西から東まで乗る人は居ないということです。
だいたい、全通時から通しで走る列車はありませんでしたね。
つまり、区間区間で乗客の変わるローカル線の寄せ集め見たいな物なのでしょう。

これはおとといの紀伊市木駅の光景です。
中学生くらいの男の子が新宮行きの各駅停車に乗って行くところです。
列車も２両編成、それも車両が寄せ集め…
当然、ワンマン運転です。
でも、この昼過ぎの各駅停車にはぽつぽつ乗客が乗っていました。

かつては、沿線にももうすこし人が住んでいましたし、人々も若く、ほんの少しだけ経済も活発でしたから、新宮ー木本の間の人の動きは活発でした。
列車も４両くらいでしたし、併走する国道には１５分に一本、三重交通と熊野交通のバスが走っていました。
道は砂利道でも今よりは便利だったのです。

カメラは　　オリンパス・ワイド
昭和３０年くれに発売されたカメラです。
つまり、このあたりがまだ『紀勢西線』だった頃のものです。
その当時の各駅停車は『紀伊木本』発『串本』行き…と言うものが多かったのです。
これも、木本ー新宮と新宮ー串本の二つのローカル線をまとめた列車でしたね。
でも、何となく、『串本』が近く感じたものです。
Tags:JR 紀勢本線 昭和 モノクロ　　市木駅　　by **je2luz** | 2009-03-18 10:59

2009 年　03 月　19 日

熊野の旅　ローカル駅　紀勢本線　紀伊市木駅

新宮駅と熊野市駅のほぼ中間地点にある、『紀伊市木駅』は典型的なローカル駅です。
引込み線も待避線も無く、単線の線路に短めのホームだけの駅です。
紀勢本線は地形の複雑な紀伊半島をぐるりと回りますから。、トンネルは多いしカーブもやたらと多い路線です。
新宮から向こうの紀勢西線側に入ると、「わざわざ曲げたのか？」と、思われるほどのカーブが多いのです。
事実、御坊の辺りでは昔の偉い代議士とかが線路を曲げて各集落を通したと言われているくらいなのです。
そうした、紀勢線の中で『神志山駅』の辺りから『紀伊市木駅』の先までがほぼ直線が続く場所です。
ずーっと向こうから汽車が見えているなんてのは、ここと御坊の辺りだけです。

この市木駅の辺りは、直線ですっと続く線路の向こうに列車が現れます。
御坊の辺りでは線路が曲がっているので、違う線の列車かしら…と思うようなところに列車が見えるのです。

JR 西日本の新宮から天王寺とかに向かってはカーブに強い『振り子電車』なんてのが導入されたりしてスピードアップを図ってきています。
JR 東海側の新宮から松坂までは、西日本よりはカーブが少ないし、熊野一尾鷲などは比較的新しい設計でトンネルばかりなので走りよいのです。
こちらは十数年前に枕木の数と線路の太さを変えてスピードアップを図りました。
昔は、汽車が早かったのはこの市木の辺りだけと言って良いくらいです。
しかし、現地で見ると、市木駅を過ぎて阿田和に向かうところは、市木川に向かって急勾配で下がっています。
直線なのですが、先が見えなくて「ジェットコースター」みたいな感じです。
昔は、重い蒸気機関車、細い鉄橋…機関手にはあまりうれしくなかったかもしれませんね。

この列車の先、線路が消えるところからが急勾配の下り坂です。
いまなら、もう少し高い鉄橋をかけてこんな勾配は作らないでしょうね。

それでも、『特急南紀』はものすごいスピードで走り向けてゆきます。
と、言ってもそんなに大層な速度ではないのでしょうけどね。

で…
ワンマン運転の車両ですから、ジーゼル気動車なのに『バックミラー』がついています。
これも、ローカル線の証です。
Tags:JR 紀勢本線 紀勢西線 モノクロ by **je2luz** | 2009-03-19 12:07

2009年 03月 20日

熊野の旅　ローカル駅周辺　紀伊市木駅

特急も止まらないローカル駅はほとんど全部無人駅になっていますね。
中には委託されておじちゃんやおばちゃんが切符売りをしているところもあるようですが、この辺はきれいさっぱり無人化しています。
しかし、かつて、鉄道が花形だった頃には田舎の小さな駅は小さいなりに大事なものでした。
大きな町へつながる、村や町の玄関口だったからです。
そもそも、田舎を無視して、すまし顔で駆け抜ける『特急』なんてものはローカル線にはありませんでした。
一番早くて『急行』、もう少し田舎の面倒を見てくれる『準急』が早い列車でした。
駅員の少ない駅でも帽子に金線を巻いたくらいの格の高い『駅長さん』が居たものです。村や町で公式行事があると、駐在さんと駅長さんは来賓として上座に座っていたくらいのものです。

そんな小さな駅の一つが、『紀伊市木駅』です。
一度も大きな駅になったことはありませんが、『市木村』の玄関口だったところです。
本当の集落からは離れたところに作られているのですが、小高い集落から眺めれば、海のほうにこの駅が見えて、汽車が発車するたびに鳴らす汽笛が時間を教えてくれたはずです。
集落が無くても、駅の前にはお店があって、駅のそばには倉庫があったのです。
市木から積み出される米などはその倉庫に保管され、貨車で積み出されていったことでしょう。
戦争が激しくなった時には、この駅からも日の丸に送られて沢山の兵士が帰らぬ旅にでたのでしょう。
そんな面影もどんどん消えてゆきます。駅長さんの官舎のあったらしき場所には普通の家が建っていますし、立派な倉庫も朽ち果てかけています。
かつては賑わったであろう駅前の茶店も自動販売機が並ぶだけのタバコ屋さんに

なってしまいました。

　旅人は特急列車で一秒でも早く通り過ぎたいようですが、田舎のローカル駅に一度降り立てば、きたことの無い場所が何となく懐かしいような気分になれるものです。
　そんな駅なら、どこの駅でも、トランクを提げた『寅さん』が汽車を待っていてもおかしくないです。
　むしろ、きれいな『特急列車』の方が似合いません。
　大体、『JR』なんて略すのが似合わないのです。

カメラは　　オリンパス・ワイド

Tags:JR 紀勢本線 昭和 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-20 11:49

2009年　03月　21日

熊野の旅　田舎の町並み　有馬町

熊野市が成立する前の三重県南牟婁郡では木本が『町制』をしいているくらいで一応町の形態をなしていました。

他のところは全部『村』でしたから、あまり町並みと言うものはありませんでした。

古くさかのぼれば、農地の無い木本に比べ、沼地が多いとはいえ、水田のある『有馬』の方が豪族の住処には向いていたようです。

かなり古くから人が住み着いていたのは間違いありません。

何しろ、火の神を生んだのが奥有馬の『生田神社』で母親を祭ったのが、下の写真の背景にある山の中腹なのだそうですからね。

縄文時代土器や更に古い石器も沢山出るのだそうです。

この通りは、有馬の旧市街と言うか、昭和４０年代に国道が少し海岸線に出てゆくまで国道４２号線になっていた道です。

『花の窟神社』のところで９０度に二回曲がってから直線に進む昔にしては珍しい道です。

次に曲がるのは『立石』と呼ばれる、『浜街道』と『本宮道』の分かれ道のところです。

もっとも、この分かれ目も江戸時代とかにきちんと整備された街道同士の『追分』のようにきちんとしたものではなく何箇所もあるようです。

大化の改新の頃に整備が始まったにしても、やはり参詣道であり、東海道、山陽道。奥州街道などとか言うような、物資の輸送、人の移動、天下獲りなどには縁の無い道なので、『ここが宿場』なんてこともきちんと定められていなかったのでしょうね。

山賊の副業でやっている民宿なんてあったのかもしれません。

この有馬は近代になると木本が狭くてどうしようもないからだったのでしょう、色んな官舎が一杯あったところです。

『電電公社』『電源開発』『国鉄』『県事務所』…沢山ありましたね。

木造平屋建ての官舎があちこちにあって、少し言葉の違う人と子供が居たものです。

いまでは、ほとんどの官舎が無くなり、土地も払い下げられてしまいました。
払い下げて一部がアパートになったりしていますが、空き地のままで放置されているところもあります。
人口は官舎が減った分減ってしまったようです。
この道筋には、薬局も 2 軒あり、電気屋、酒屋、米屋、散髪屋、パーマ屋、肉屋、産婦人科医院…何でも揃っていたのです。
いまでは、そうした店はほとんど閉店し、実に静かな町並みになっています。

同じところで 90 度山の方を向いた細い道の風景です。
この辺りは、町並みと言っても、やはり百姓さんの屋並だったところなので、庭があり、生垣で囲んだ家が多いのです。
結構まともな生垣の中がみかん畑だったりするのもいかにも田舎らしいものです。
このすぐ先を走る『紀勢本線』の汽車からだと、手を伸ばしたら取れそうな所に夏みかんがなっています。
ローカル線らしいです。
Tags:熊野古道 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2009-03-21 12:19

2009 年 03 月 22 日

熊野の旅　春本番　イベントの季節

春も本番になってきました。
屋外でうろついても寒くなくはないし、暑くも無い気候なのでイベントが多くなります。
北国ではまだまだ寒い日があるので屋外イベントも企画しにくいのでしょうけど、この辺りだと一倍いよい季節でもあります。

この三連休、熊野市ではメインストリートの記念通りが二日間も通行止めにされるイベントが企画されました。

一日目は昨日の土曜日、『漫画大会』とやらでした。

二日目は恒例の『いこらい市』だと言うことでしたが、今日は小雨が降っているので中止になったのではないでしょうか？

それに、この『いこらい市』、普段の開催は記念通りの歩道の上に収まっている状態なのです。

昨日の『漫画大会』とやらの趣旨は良く分からないのですが、記念通りを閉鎖してこのように机を並べ、参加者がそこで漫画を書く…と言うものです。

この通りはバスも通るのですが、三重交通も閉鎖されることに慣れているし、日曜祭日なら木本高等学校の通学生が居ないので困る乗客もほとんど居ませんからあまり問題はありません。

バスが路線を外れても問題にならないことが、この記念通り商店街の大きな問題なのですがね。

私がこの写真を撮ったのは午後 1 時とかだったと思います。
用意された机の割りに参加者が少なかったです。そして、イベントの性格からか、女の子の比率がかなり高かったですね。
昔と違って、漫画が市民権を得ていますから、親子連れも見られました。
スポンサーに商店が名を連ねていましたから、出来た作品は審査して賞品も出るのでしょうね。

このように、地方では色んなイベントを考え出してやっています。
主催者さんもご苦労さんです。
昨日はこの通りにある市民会館で『三重大学』の交響楽団か何かのコンサートもやっていました。
開場前には少し人が並んでいましたが、定員 700 人ほどの市民会館が埋まるほどの人出は無かったように思います。
どこでも同じだと思うのですが、こうした文化事業への参加はご婦人の方が多いようですね。　私の顔見知りにも何人か出会いましたが、そうした『文化人』は全部女の人でした。　私はどちらかと言うと『野蛮人』ですから、『券あるで…いこらい！』と誘われましたが、断りました。
そんな『コンサート』なんてのはスナップだけ撮って途中で出てくるわけには行きませんからね。
それに、会場に向かっているのが『妙齢』を過ぎた方が多くて…

この二つのイベントが同時開催されていたのですが、どうも結びつくものではなかったようです。イベントが主催者のエネルギーの結集の手段になっているうちは良いのですがねえ…

Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-22 11:29

2009 年　03 月　23 日

熊野の旅　次のイベント　古道ぜんざい

春のイベントシーズンですから、次々と開催されるようです。
今度はこの週末に、『ＪＲさわやかウォーキング』とやらがあるのだそうです。
ＩＲが頭に付くのですから、『東海旅客鉄道』が主催者なのでしょうね。その後ろには、熊野市・東紀州まちづくり公社・などがくっついているようです。なんだか一つ得体の知れない団体がありますがとにかく、公のものが乗っかった一大イベントら

しいです。
　朝…と言ってもさほど早くない１０時ごろに『波田須』を出発して、『大吹峠ー松本峠ー木本神社ー紀南ツアーデザインセンター』と言うルートを歩いてくるようです。
　二つの峠を越えるのですが、それぞれ小さな峠ですから健脚でなくても大丈夫な古道歩きですね。

　これに付随して行われるのが、地元の有志で作っている『木本古道通りの会』とやら言う団体の『古道ぜんざい』を振舞う企画です。
　毎月やっているやつですが、今回はこの『さわやかウォーキング』に参加する５００名の方をも対象にするような通知が来ていました。
　なんとも、主催者の計画では大きな団体を作り上げるつもりのようです。
　話半分でも２５０人…
　もしこれが本当なら、『蟻の熊野詣』が再現されそうです。

　私が参加するかって？
　波田須駅から国道まで上がるだけでも遠慮させていただきます。
　忘れなければ、人並みの写真くらいは撮るでしょうけどね。

　この日にこのコースを個人で歩かれる人は少しだけ時間をずらした方が良いかもしれません。
　団体に便乗して『語り部』『ガイド』をただで使う手法もありますが、『熊野古道』は静かな方が良いです。
　「ぜんざい」はお昼ごろから『紀南ツアーデザインセンター』（旧奥川邸）で券が配られますから、個人の方でもそこでもらえます。食べるのは『石畳』の本町筋、３丁目の『平岩茶屋』と名づけられた元自転車やさんです。二丁目・三丁目の奥様方や旦那さん方が接待してくれます。０年前だとさぞかし・・・（１０年前なら…ではありません）

　このぜんざいはお天気を見て仕込む、月一回のものですから今年のように天候不順ですと…
　天気が心配で…『熊野古道よりぜんざい』という方は世話役の『丸太商店』さんに問い合わせれば分かると思います。
　このお店はこの地方きっての雑貨屋さんで、今式のものから「ハガマ」や「かまどの輪」まで売っています。
　見かけは普通の雑貨屋さんですけどね、電話は 85-2224 です。

本町筋は商店も減ってしまい、やたらと小さな駐車場がならんでいますが、かつてはこんな感じの木造住宅と同じく木造のお店が混在して並んでいた町だったのです。

この玄関は、昔、外科の医院だったところです。覚えている人もほとんど居なくなっていますけどね。

もう、屋並は壊れていますが、歩きながら軒下など覗けば『古きよき木本』がしのばれると思います。

でも、前の道は整然としすぎた石畳よりは砂利道の方が似合うと思うのですがね。

Tags:熊野古道 石畳 モノクロ by **je2luz** | 2009-03-23 11:15

2009年 03月 24日

熊野の旅　松本峠ー木本神社ー花の窟神社

『熊野古道』の見所でもある『松本峠』『木本神社』と『獅子岩・花の窟神社』は木本町を真ん中に挟んだ形で両脇にあります。

これを結ぶ散策コースとして、『本町通り』が使われるだろう…という事で、通りを石畳に変えたのです。

でも、配置が少しずれているからでしょうか、『花の窟神社』に向かう人たちの半数以上が国道４２号線を歩いているような感じです。

およそ味気ない、向かい側は高い堤防で浜への出口のところで、ちらりと海が見えるだけ…もう片方にはほんの少しお店があるのですが、今、営業しているのは『モスバーガー』と『かだす亭』と言う小料理屋、『白帆屋』と言う小物屋、『高須商会』と言う土産物屋、『シャンブル』と言う喫茶店くらいです。

今の国道は昭和４５年（1970）ごろに出来た、元々は本町の裏通りだったところですから、木本らしいものが無くて当たり前です。
私はこの国道４２号線向きに家を建てて暮らしていますが、完全にこちら向きに暮らしているのはほんの数軒だけです。
外に出て、眺めるのは国道側、用事に出るのは本町側という形で、両方を使って生活しますから、観光客の姿も両方見ることになります。

これは３月２２日の午後、我が家の前の国道を、『獅子岩・花の窟神社』に向かって、急ぎ足で歩く、熊野古道歩きの人たちです。
まだ、遅い時間ではないのですが、なんだか影が長く伸びて、旅人が余計も急いでいるように感じられます。
『狭い日本、そんなに急いで　どこへ行く』なんてのが昔ありましたが、なんとも、せわしなく見える旅行者が多いです。不思議なもので、こうした観光客の方々の歩き方を見ていると、「国道を歩いていると早足に…」、「本町を歩くとのんびりと…」になっているようです。
急ぐから国道で、のんびりしているから本町筋、と言うのか、道の作りがそんな歩き方をさせているのかは分かりませんが、確かのそんな傾向があります。
きょろきょろするほどの物は本町通りにも無いのですけどね。
それこそ、喫茶店も食堂も今ではないのです。
自販機でさえがほとんど座っていないのですけど、何となく足が遅くなるのんびりしたところのある町並みなのでしょう。
何しろ、急ぎ足で歩くビジネスマンなんて居ません。ぼちぼち歩くのが日課になっているお年寄りの町ですからね。毎日が『歩行者天国』のようなもので、車をよけなくてはならないことも少ないです。

ガイドの付いた団体さんは本町を歩いていますが、個人の方は国道に出ちゃうようです。
どうも、このコースは人間工学的には良くないようです。

Tags:熊野古道 石畳 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-24 11:08